

三日月さま

健太君は毎日友達と元気がいっぱい遊んでいます。4年生になった時、お父さんが突然病気で亡くなってしまいました。

「キャッチボールしたり、サッカーも一緒に出来ないよー」と大声で泣きました。

明るかった健太君が無口になってしまいました。そんな健太君を心配して優しいお母さんが言いました。

「健太、悲しい事があったらお父さんだと思って三日月さまにお願ひするのいいよ。健太を見守ってくれているよ。」

それからの健太君は、広い空

の中に三日月さまが出ていると手を合わせてお願ひするようになりしました。

健太君が学校から帰ってくる時、お母さんはいつも畑に行っています。お母さんを迎える茶畑の一本道を歩いていると西の方が見つ赤な夕焼けでした。

「きれいだなあ。」

いつまでも見とれていました。大好きなお母さんと一緒に帰る時、三日月さまが出ていました。

三日月さまが僕達のあと



をついて来る。「健太君は大きな声で言いました。三日月さま、僕が大人になるまでお母さんが元気でいてくれるように見守っていてね。」お母さんは涙をためて健太君を抱きしめました。

創作童話募集

- ◆瑞穂町に在住、在勤、在学の方ならどなたでも結構です。(ペンネーム可)
- ◆字数は500字程度です。
- ◆紙面の都合上、編集委員会で加筆・修正することもあります。
- ◆ご興味のある方は議会事務局までご連絡ください。

編集後記

米国発の株価暴落は世界に波及し、各国の経済に大きな打撃を与えています。今号が出る頃には、衆議院選挙が行われるかもしれませんが、その前にこの金融危機に対しては、迅速・的確な手を打ってほしいと思います。今議会では、決算委員会で、19年度予算が適正に執行されたかを審査しました。お読みになった感想やご意見をお寄せ下さい。

(小川 龍美)

作：栗原 三枝子(高根在住)
 絵：草野 美奈子(箱根ヶ崎在住)